中東・中央アジア地域研究分野　Middle Eastern and Central Asian Area Studies

国際環境・地域環境学講座、中東・中央アジア地域研究分野の活動報告

Environmental Risks and Human Insecurity

教授　木村　喜博
Professor
Yoshihiro Kimura

Our laboratory conducts a comprehensive research on the diversity of environmental problems that face the Middle East and Central Asia today, from the perspective of the interaction of natural environment and human life & community, taking account of global & regional distinctive features. Our research aims to understand how human society in the Middle East and Central Asia has been changed by various factors which constitute human society - internal and external political, economic, social, ideological, cultural, and other factors, especially natural environment on which human society is built, that is say, to think of how nature, technology, and human society should be combined, realistic types of human society and life system in harmony with environment, from social science's viewpoint.

This year our study was concentrated on "Environmental Risks and Human Insecurity in the Ferghana Valley" in Central Asia.

Hydraulic power plant over the Naryn River (headwaters of Syr Darya river) in Kyrgyz Republic: one of the causes of water war in Central Asia

Ferghana canal: main irrigation canal in Uzbekistan on which Agriculture of Ferghana valley is based

Mailuu-Suu (Uranium tailings in the Kyrgyz Republic), Landslides wash tailings into the small stream which runs down into headwaters of Syr Darya river

A view of picking cotton (called white Gold) which is the most important crop in Ferghana valley

［今年度の中東・中央アジア研究分野における活動］

Ⅰ 中央アジアの環境問題に関する共同研究の継続

2005年度末から発足したこの共同研究は、今年度からはとくに「環境リスクとヒューマン・インセキュリティ」を焦点に研究を実施しました。中央アジアのタシケント国立経済大学（ウズベキスタン）の研究者とキルギス共和国科学アカデミーの学者と現地で研究会を実施しました。この活動の中間報告は2007年度末に印刷物として公表します。

Ⅱ 「アジアの環境問題に関する研究ネットワーク」の構築

2005年度から実施している西アジアとインドとの環境問題研究のネットワーク構築を継続しました。今年度は、インド工科大学―ボンベイ校（大学間学術交流協定校）から博士課程学生を1ヶ月間受入れ、テヘラン大学（大学間学術交流協定校）に博士課程学生を現地調査のために派遣しました。さらに、インド工科大学の研究者に加えて、クウェート大学とインドネシアにある国連機関（農業研究）の研究者を、2008年1月28日開催の International Workshop on Environmental and Health Risks for Sustainability in Arid Region に招聘し、交流を深めました。

Ⅲ「ヒューマン・セキュリティと環境」教育コースへの参加

「ヒューマン・セキュリティと環境」コースには修士課程と博士課程に１名ずつ在籍しています。学生は、海外の研究対象地域への現地調査やアジアの「ヒューマン・セキュリティ」に関する国際会議に出席・発表、国内視察等積極的な活動を展開しました。

Ⅳ他研究科への教育協力

大学院国際文化研究科のイスラム圏研究講座に教育協力を行っています。現在、後期３年の課程の院生3名と前期２年の課程の院生１名の研究指導を行っています。後期３年の課程の１名は、日本学術振興会特別研究員（DC）に採用されており、2008 年３月からは外務省の在外専門調査員としてカザフスタンの日本国大使館に勤務することが内定しました。

Ⅴ研究活動

＜学生の派遣＞

1．マアスメ・ラメザニ（博士課程２年）

海外調査に派遣（2007 年４月９日～６月 30 日）。21 世紀 COE「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の国際インターンシップ派遣として、イラン国のテヘランとバムで調査を実施しました。

研究課題は、「災害に対する社会の脆弱性と被害からの復興・災害防止のシステム構築の社会流動ダイナミックス：イランのバムと日本の神戸の比較から」です。

2．オスカル・ゴメス（修士課程２年）

タイのバンコックのチュラロンコン大学で、2007年10月4～5日に開催された国際会議（"Mainstreaming Human Security: The Asian Contribution"）で発表しました。タイトルは "Implementing Human Security: Japanese perspective through the United Nations Trust Fund for Human Security" です。

＜海外からの研究者の受入れ＞

1．アルチャナ・パタンカル（Archana Patankar、インド工科大学 - ボンベイ校の博士課程の学生）を

21 世紀 COE「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の国際インターンシップ奨学金で受け入れました。2007 年５月７日～６月 20 日に滞在し、"Flow Dynamics of growth, Environmental Pollution and Health: a Comparative Study of India and Japan" について研究を行ないました。

＜論文・発表＞

1．荒井康一

「民族主義者行動党（MHP）躍進の社会経済的背景―現代トルコにおける地域差と政党制―」『国際文化研究』第 14 号　（東北大学大学院国際文化研究科）（来春発刊予定）

2．　浅村卓生

1）「理念としてのウズベク語：標準語における母音調和表記の問題（1924-1934）」2008 年１月 12 日，北海道中央ユーラシア研究会（北海道大学）

2）「ウズベク言語政策と文学史：ナヴァーイーと母音調和をめぐる問題」2008 年２月 24 日　「旧ソ連圏アジア諸国・地方における歴史的伝統の再定義と学術・教育動向に関する研究」第２回研究会（東北大学東北アジア研究センター）

3)　『ロシア・東欧研究』（ロシア・東欧学会）11 月末日提出・査読中

＜現地調査＞

1．水俣へのフィールド調査（11 月 14 日～ 17 日）

水俣公害が及ぼした環境・生活破壊と健康被害の実態を視察し、ヒューマン・インセキュリティの原因と結果についての構造を理解した。

2．シリア (7 月 30 日～８月 12 日)、ウズベキスタン (9 月 25 日～ 10 月４日)、キルギスタン（11 月 30 日～ 12 月８日）へのフィールド調査。西アジアと中央アジアの水資源と環境リスクに関する調査を実施した。キルギスでは、さらに産業廃棄物や放射性廃棄物がもたらす環境破壊の現状についても視察した。

＜外部資金の獲得＞

科研費萌芽研究「フェルガナ渓谷の環境リスクとヒューマン・インセキュリティ」（2 年間）